聴覚障害者向け予防動画

HIV正しい知識を

監督「情報届けたい」

ともに 2020 バリアーゼロ社会へ

聴覚障害のある人にエイズウイルス（HIV）の感染予防の正しい情報を届けようと、ろう者で映画監督の今村彩子さん(39)＝名古屋市＝が、手話・字幕付きの啓発動画を制作した。感染した当事者の声も盛り込んでおり、12月1日の世界エイズデーに合わせて無料公開する。「誰にとっても身近な病気であることを知ってほしい」と呼び掛けている。【蒔田備憲、写真も】

今村さんはこれまでも聴覚障害にかかわる作品を手がけてきた。以前、聴覚障害者で性的少数者（LGBTなど）でもある人たちを取材してDVDを制作した際、HIVにも知られたくない」という気持ちから窓口に足を運びづらい現状もあるという。

関する情報が聴覚障害者に行き届いていない現状を知った。「予防と治療には正しい知識と情報が必要なのに、聴覚障害者は取り残されている」と感じたことが、動画制作のきっかけになった。

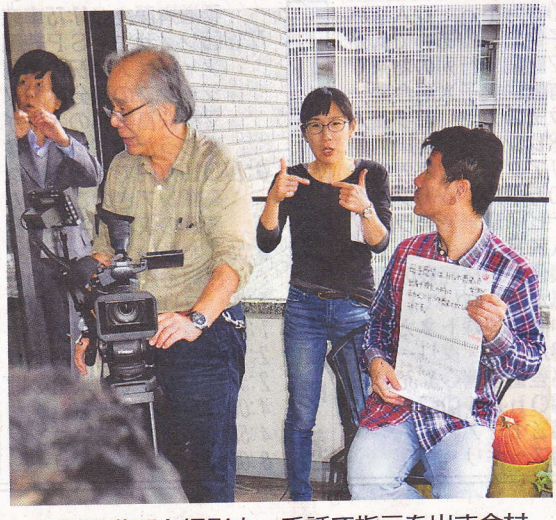
今回の動画は全編に手話と字幕が付き、専門医が解説する。性交渉など感染経路の注意点、HIV検査を受けるための方法なども紹介した。案内役を務めるのは、難聴で長崎大病院耳鼻咽喉科の吉田翔医師(34)。HIVを専門にしているわけではないが、聴覚障害者に身近に感じてもらうため出演した。

今村さんによると、既存の啓発動画には字幕や手話通訳が付いていないことがほとんど。手話を使う聴覚障害者の場合は、相談窓口で通訳者が必要になることが多く、「誰

HIVに感染した、ろう者の男性の体験談も盛り込まれた。登場するのは難しかったため、「生きていられない。死んだ方がいい」と絶望した気持ち、感染したことを知っても普通に接してくれる友達に出会い「ひとりぼっちじゃない」と感じたことなどを、別のろう者が手話で代弁した。

今村さんは「誰もが感染しうる、身近な病気であることを知ってほしい。聴覚障害者だけでなく、聞こえる人や支援団体にも見てもらい、聞こえない人が悩んでいるかもしれないと気付いてもらいたい」と話している。

動画についての詳細は今村さんのホームページで。



㊤啓発動画を撮影中、手話で指示を出す今村さん（中央）＝東京都港区で
㊦啓発動画の一場面。右は吉田医師。全編に字幕と手話通訳が付いている＝今村さん提供